



開所日時 月・水・木・金曜日
15時～18時
土曜日 10時～13時

児童デイサービス

～仲間を介した療育方法に効果期待～

先週、参加の児童全員（8人）で九品地グラウンドへ大縄跳びに出かけました。

いやだいやだと言っていたA君がちょっとだけみんなと一緒に輪の中に入ってくれました。また、遊具で遊んでいたY君もみんなのところに戻って参加したりして、単独で散歩に出かける時とは違った表情を見せてくれました。

これからも、子どもたち同士の係わりも大切にしながら、プログラムを組み立てていきたいと思っています。



比べながら工作を楽しむ子どもたち

◇認知症介護家族を支援するための講習会のご案内◇

日時 平成20年3月18日（火）
午前9時30分～11時30分
場所 尾西生涯学習センター6階大ホール
講師 社団法人 認知症の人の家族の会
愛知県支部 代表 尾之内直美氏
内容 ・認知症の方への対応のコツ
・認知症介護家族のたどる心理ステップ
・家族から介護サービス事業者へ期待すること



住民参加型在宅福祉サービス 団体セミナーに参加して

テーマ「助けられ上手は助け上手」
支援型サービスとは
講師 住民福祉総合研究所所長
木原孝久氏

平成20年2月15日（金）に開かれたこのセミナーで「梶田式・有償サービス」を知る機会を得ました。

長野県駒ヶ根市社会福祉協議会の梶田ひと美さんが独自に開発した方式「梶田式」を分かりやすく木原氏が解説されました。

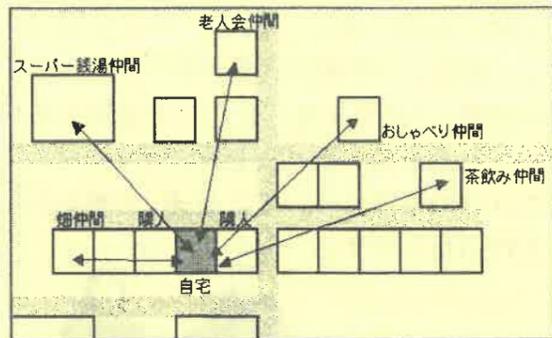
梶田さんは依頼があれば依頼者本人宅を訪問し、依頼者の生活環境や依頼内容を掘り起こしする。そして「この人なら頼みたい」と思える、同じ地域の知人・友人・あるいは支援が出来る人を一緒に探す・・・

そしてその人たちを支え合いの地図に書き込んでいく・・・

この作業の中で新たに協力者ができたり、新たな利用者が発掘できるという。

「助けるー助けられる」の仲間が見つかる、「あとはよろしくやって」と突き放し、無理に有償サービスのシステムに組み入れようとはしていない。助け合いは利用者が助けられる人、協力者が助ける人といった固定したものではなく、それぞれが入れ替わったりする。そこにお金のやり取りがあったとしても、これこそが「持ちつ持たれつ」の精神なのだと言われた。

地域が活性化するためにいろんな工夫とアイデアが実践されています。大いに参考にしたいと思いました。



IMさんの例で協力者を地図に書いてみました

心づれづれ



星野真己子

今、思うこと

私には、心身にハンディキャップを持つ息子がいます。通所している作業所の職員の方々、ショートステイや日中一時預りでお世話になる施設の方々、在宅リハビリに来て下さる先生、毎週お風呂に入れて下さったり、月一回外出に連れて行って下さる「まごころ」のヘルパーの方々等多くの人々に支えられ充実した生活を送っております。本当に皆様にはいつも感謝の気持ちでいっぱいです。

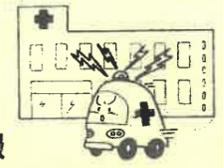
皆様の真心を頂くばかりの私ですが、今回息子の体調や日程、また息子の朝の送迎が「まごころ」さんに協力頂けたり、作業所の方が時間延長して下さったりいろんな条件がそろったので、「ヘルパー二級講座」を受講することにしました。以前から勉強したいと思っていた、学生以来の一日机に向かうという感じでしたが、勉強していくことが楽しく興味深く、またいろんな方々の話を聞くことができ充実した日々でした。

特別養護老人ホームでの介護実習は、三日間の実習でしたが、そこで働く人々の姿勢には本当に頭の下がる思いでした。

どんどん進む高齢化の中で、ヘルパーの重要性を痛感させられます。また息子のようなハンディキャップを持つ者にもヘルパーのサポートが不可欠だと思います。ヘルパーは誰にでもできる仕事ではありません。真心を持って、笑顔を持って、その人の気持ちになって介護することが必要です。ヘルパーの方々にはこれからもぜひがんばって頂きたいと思っています。私も微力ながらやっていければと思っています。



事故発生



▼利用者さん宅から119番通報

要介護3の利用者さんが、ベッド上で団子を食べていて、のどに詰まるという事故がありました。その時意識がなくなり、仰向けに倒れベッドからもズリ落ちてしまいました。目の前で、ヘルパーは一瞬どうして良いか分からず、とにかく119番に急いで電話しました。

救急隊員からの「起こして背中を強く叩きなさい!」「できなかつたら横にして、背中を強く叩き口の中の詰まっている物を取り出さない!」と指示を受け、その通りにしたところ、口の中から団子を取り出すことができ、本人も意識を取り戻すことができました。

念のために救急車で病院に運ばれ、駆けつけた家族にも大事に至らなかったことを報告しました。

▼救命のポイントは見ていたこと

幸いにも、ヘルパーが事故の様子を見ていて救急車を呼び、その状況を伝えて処置を行う事ができましたが、認知症の高齢者や障害者の生活において、いつ何時事故が起こるか分かりません。

今回の教訓で、「ケア中のヘルパーは、必ず利用者が今何をしているかを把握すること。危険が無いかを感じ取ること。誤えんしやすい利用者には、噛みやすい大きさ、硬さを考慮に入れて調理すること。」など再確認しました。

事故発生報告書として一宮市へも報告しました。

▼正確な状況説明と冷静な処置が肝心

救急法も度々勉強していても、中々いざと言う時に応用できるとは限りません。思わぬ出来事に遭遇するのが介護現場です。その時ヘルパー自身が判断し、正確な状況説明と冷静な処置を行わなければなりません。

介護の仕事は、利用者の「いのちとくらし」を守る大切な仕事であると改めて思い知らされた出来事でした。